

■ 朝のこない夜はない ■

かげ ひ な た  
陰日向なく

く ど く  
功徳を積み  
かさ  
重ねましょう

山首 鈴木 正修



## 勤儉と陰徳

### 危機からの脱出法

京都に、小さなモーターを作っている日本電産という会社があります。その会社の社長・永守重信さんは、かつて入社試験を「早食い」や「大声」で決めたという非常に面白い方で、名物社長さんです。会社は日本有数の超一流企業です。その日本電産は去年の秋くらいから株価が下がり、最近また倍くらいになりました。いったいどういうことかと思っていたところ、プレジデントという雑誌に永守さんの文章が載っていました。それを読んだで事情がわかりました。

書き出しが永守さんらしくて面白いのです。が、「危機ほど楽しいものはない。困難と出会うたびにそう思う。克服することで会社はますます強くなるからだ」と言われています。松下幸之助さんも「好景気よし。不景気なおよし」と言われましたが、よく似たところがおあります。

二〇〇八年のリーマンショックの時、日本電産も減収減益の大打撃を受けたのですが、その時、全社員に「これからよくなる改善策はないか」と問いかけたところほぼ全社員が改善策を出し、永守さんはそれを全部実行し

たと言うのです。いい案あんだけを取り上げたの  
ではありません。全部ぜんぶの案あんを実行じっこうしたところ、  
二〇一〇年ねんには過去最高益かこさいこうえきを達成たっせいしたとい  
うことです。

しかしその二年後ねんご、想定外そうていがいのことが起き、  
急にモーターきゅうが売れなくなりました。タブレ  
ットかんたん（簡単に持ち運べるパソコンのようなも  
の）が普及ふきゅうしてノートパソコンが売れなくな  
ったのです。永守ながもりさんの会社かいしゃで作る超精密モ  
ーターはパソコンには使つかわれていますが、タ  
ブレットには使つかわれていませんので、タブレ  
ットが普及ふきゅうするに従したがってモーターが売れなく  
なったのです。その状況じょうきょうを見て永守ながもりさんは  
「タブレットは普及ふきゅうすると思おもっていたが、こ  
こまで来るとは読みが甘あまかった」と言いわれて

います。そこで永守ながもりさんはそれまで貯たくわめてい  
た資金しきんを使つかい、工場こうじょうのラインを大転換だいてんかんしまし  
た。大転換だいてんかんできた理由りゆうを、

「一つの事業じぎょうが上向きうわむになり、儲けもうを出し始  
めたらそれだけで慢心まんしんして立派りっぱな家いえを建て、  
高級外車こうきゅうがいしやを乗り回まわす社長しゃちょうがよくいる。余裕資  
金きんを贅沢ぜいたくの為ために使つかってしまうのだ。これが失  
敗ばいする経営者けいえいしやのパターンである。だから私は  
贅沢ぜいたくをしない。家内かないも同じ考かんがえで、家政婦かせいふを  
頼たのむでもなく、一人ひとりで家庭かていを切り盛りきりもしてい  
る。そればかりか日本電産にほんでんさんが大会社だいがいしやに成長せいちょうし  
てからも、いつか悪わるくなる時ときが来るのではな  
いかと心配しんぱいし、子どもこどもの教育資金きょういくしきんだけは会社  
の取引銀行とりひきぎんこうとは別べつの銀行ぎんこうに預あずけてきた。万一まんいち、  
個人補償こじんほしょうを求められてもその分ぶんだけは手放てばなさ

なくとも済むからだ。今のよう順境は絶対  
に長く続かない。この感覚が私たちの中には  
ある。伸びる時があれば縮む時がある。縮ん  
だ時にどれくらい持ちこたえられるかが企業  
の命運を左右する。トヨタ自動車の基礎を築  
いた豊田英二さんは会長時代に『二兆円もの  
内部留保を何に使うのか』と問われて『どん  
な危機が来ても四年間は持ちこたえられるよ  
うにするためです』と答えておられる。あの  
大トヨタですら全く慢心していない。こうし  
た慎重さが永続する企業の一つの条件ではな  
いだろうか」と言われています。

永守さんはトヨタ自動車の会長さんの言葉  
を座右の銘として一切贅沢せずお金を貯めて  
こられたので、今回のような危機が来てもす

ぐラインの転換が出来、回復できたのです。  
貯蓄は非常に大事なことです。また、目的  
をもって貯蓄をすることが、殊に大事です。

### —— 倅約をして何をするか ——

「明治」になって日本は様々な面で大躍進を  
しました。その立役者の一人、渋沢栄一翁は、  
生涯に何百という会社を作って全部人にあげ  
たという欲のない人です。その渋沢翁が、孔  
子の論語の里仁篇の「子曰く、約を以てこれ  
を失する者は鮮し」を引用して「何事をする  
にも心を引き締め、慎しやかにやれば失敗は  
少ない」と、機会あるごとに言われたとい  
います。

渋沢翁は大正十一年七月一日、関東大震災

の前年、時の内閣総理大臣・加藤友三郎氏に呼ばれて就任披露パーティに出席しました。大震災の前、多くの国民が贅沢にふけているように見えたためでしょう、加藤総理が「世の中が贅沢に流れている。これはよくない。質素儉約を旨とせよ」と言われました。それを聞いて渋沢翁は「ただいまの総理のお言葉は我々にとつてまさに頂門の一針である。世間には表に木綿を用いて裏に絹を用いる人もいる。あるいは、一双の屏風に数十万円も投じて喜んでいる人もいる。単に豪華なものを持つて豪奢を誇るのなら、大いに慎まなければならぬ。ただ、一歩進めて言えば儉約ということとは、単に物を節約するという消極的な一方ではよろしくない。昔江戸の大名に

儉約主義の人がいた。諸事万端節約を旨とし、その実行に心を砕いた結果、まず家来を排し、犬や鷹を逃がした。最後は自分一人になり、自分が生きているのも無用だと自殺をしてしまった。儉約は大事なことであるが、この大名のように万事消極的では何もできない。経費を節約することも大切であるが、同時に、国家として重要な意味を持つ事業には大いに積極的でなければならぬ」と言われました。当時の日本はまだ世界に大きく遅れを取っていました。ですからその席で渋沢翁は「農業も工業も理化学も、すべての分野にお金を投じるべきだ。そのためには国民一同が積極的な儉約をしなければならぬ」と言われ、万雷の拍手がわいたと言います。

## 虚栄心を捨てよ

おなじ明治の頃、東京大学の教授でありながら億万長者になった本多静六という人がいます。本多さんは東京大学の林学の教授でありながら当時の淀橋区の長者番付で一位になった人ですが、東京大学を定年退官するにあたって、貯めたお金を全部公共事業に寄付されました。その後、戦争が起こって生活に必要な財産もなくなりましたが、また貯蓄をして長者番付に載ったという稀有な人です。この本多さんが非常に参考になることを言っておられます。

本多さんがされた貯蓄法は、ドイツに留学した時に師事したブレンターノ博士という人に教えられたことでした。このブレンターノ

博士が、学者なのに大変なお金持ちだったのです。

ある時、「ブレンターノ先生、何故そんなにお金があるのですか」と聞いたところ「一生懸命働いて貯蓄していけば自然に貯まるものだ。学者だって貧乏生活をしていたら好きな学問もできないし、やりたくないこともやらないといけなくなる。君も日本に帰ったらちゃんと貯蓄を考えた方がいいよ」と言われました。そこで考えたのが「四分の一天引き貯金法」です。これは、収入が入った時に四分の一天引き貯金をしてしまうという方法です。初めから四分の一はなかったものとして、四分の三で生活し、臨時収入は全額貯金していくのです。

こういうことも言っておられます。「お金をバカにするな。お金をバカにするものはお金にバカにされる。これが世の中の偽らざる実情である。財産を無視するものは財産権を認められる社会に無視される。これが世の中の実情である」

お金が嫌いという人はいませんが、「世の中金じゃない。金なんて」と言う人はいます。

それに対して博士は、「そういう考え方はよくない。お金はありがたいと言え」というのです。そして、「勤勞して儉約せよ。勤儉の勤とは、精神的または肉体的な生活を意味し、普通に言う勤勞とか努力と同じである。儉とは、物を慎しく使うことで、儉約と同じである。一般に『勤勞して儉約せよ』と言うと、

いかにも苦しいことを奨めるように考えるが、実は勤儉の生活よりほかに幸福な生活はないのである。あらゆる人生の快樂も富も名譽も、勤儉を通して初めて得られるものである。勤儉すなわち幸福であり、幸福の度は勤儉の度に正比例する」と言われています。「一生懸命働いて貯金をする。それ以上の幸せはない」と言われているのです。

さらに「虚栄心を捨てよ」ということも言われています。

「貯金生活を続けていく上で一番障りになるのは虚栄心である。いたずらに家柄を誇ったり、今までのしきたりや習慣にとらわれることなく一切の見栄をなくせば、『四分の一天引き生活』くらいは誰にでもできる。自分の



値打ちが銀、もしくは銅でしかないのに『暮らしは金にしたい。金メッキでもいいから金に見せかけたい』といった虚栄心から、多くの人は儉約できないのである。私の家では衣服について『つもり買いのつもり貯金』ということをやった。呉服屋のショーウインドーを外から眺めさせて、気に入った柄、気に入った物はいつでも望み通りに買うことに賛成した。賛成はするがそれを即座に持ち帰るのではない。ただ買ったつもりにさせるだけだ。そうして品物はそのままお店に預けておくことにし、その品物がなくてはならなくなるまで、その代金と同額を銀行に預けておくのである」

儉約してお金を貯めることは大切ですが、

言うまでもなく、同時に徳を貯めることが肝要です。いざという時にお金がないのは困りますが、不思議と、徳があればどうにかなるものです。

かの新渡戸稲造博士は「徳を積んだからといって栄華を極めることはできないかもしれない。人から称えられたり、給料が増えることもないかもしれない。しかし、徳を積む人は人から嫉まれることはないし、むしろ嫉む人を教化する力を持っている。そして何よりも、人の知らない楽しみを手にすることができる。金では買えない満足と快楽を得ることができるのである」と言われています。

菩薩行の喜びは、行なったことのある人にしかわかりません。



## 徳の積み方

最後に徳の積み方についてお話したいとおもいます。徳を積む時の心得が中国の古い書物にあります。それにはまず「陰徳が大事」と書いてあります。人の見ているところで良いことをするのも良いのですが、陰日向なくするのが良いのです。それには、飢えた人が食を求めるように、のどが渴いた人が水を求めるように「何か善いことがしたい」と絶えず考えてゆくことです。そして、いつも心を点検することが大事です。「本心に清い心で

やっているか。欲でやっていないか」と、自分の心を点検するのです。また、境遇によって徳を積んだり積まなかったりしてはいけません。病気だから駄目だとか、今お金がないから駄目だとか、そんなことを言っていてはいけません。いつも、どんな境遇でもできる徳積みはあるものです。

最後は、「徳を積んだ後に徳を積んだという顔をしてはいけない。まだまだ足らないという思いでいなさい」と書かれています。心の奥にしっかりと置いておきたいことです。